

10月は目の愛護月間

10月の「目の愛護月間」には、全国各地で目の健康に関する行事や活動が行われます。

本特集では、島根大学医学部眼科学講座の谷戸正樹教授、山根縁助教にお願いいたしまして、「眼底出血」について記事をご寄稿いただきました。これを機会に目の問題に関する知識の向上と、目の健康に対する関心を深め、健康管理について考えていただければ弊社といたしましても幸いです。



眼底出血について

島根大学医学部眼科学講座 助 教 山根 縁
同 教 授 谷戸 正樹

気付かないことも多い眼底出血

眼底出血と聞くと怖いイメージがある人が多いかもしれませんが、眼底出血とは目の奥にある網膜の出血のことを指します。網膜の中心部には黄斑という視力にかかわる重要な部位があります。黄斑に出血が起こった場合には見えにくいといった自覚症状が出ますが、網膜の周辺に出血が起こった場合には自覚症状はあまり出ないため、そのまま気付かず過ごしてしまうことがあります。

眼底出血を起す疾患

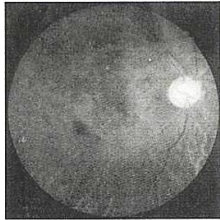
眼底出血を起す病気として、全身疾患によるものは糖尿病網膜症、高血圧網膜症、貧血性網膜症などがあります。また、高血圧や動脈硬化が原因で静脈の血流が悪くなり発症する網膜静脈閉塞症、加齢に伴って発症しやすい加齢黄斑変性も眼底出血を起します。他にも、網膜細動脈瘤の破裂、高度近視や外傷などが原因で眼底出血を起すこともあり、眼底出血の原因は多数あります。

治療について

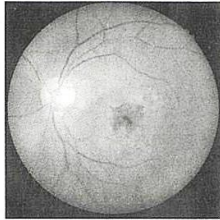
全身疾患によるものでは、糖尿病、高血圧、貧血といった元の病気に対する治療により出血が改善することがあります。糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症では、どちらも網膜の血流が悪くなり、VEGF(血管内皮増殖因子)という物質が目の中に増えることで眼底出血や網膜の腫れ(黄斑浮腫)を起します。また、加齢黄斑変性でもVEGFが増えることで、新しい新生血管が生えてきて眼底出血や黄斑浮腫を起します。このVEGFが関わっている病気に關しては、VEGFを抑える薬を眼に注射します。また、必要があればレーザー治療や手術を行う場合もあります。

定期健診と、症状が出たら早めに眼科受診をしましょう

眼底出血は自覚症状のないことも多いため、健康診断を受けることや定期的な眼科で眼底検査を受けることが大切です。特に糖尿病の人は、自覚症状がなく糖尿病網膜症になつていても多いため、自覚症状がなくても定期的な眼科での眼底検査を受けましょう。また、眼底出血の原因は多数あり、原因や状況により治療法も変わってきます。治療が遅くなると視力の回復が難しくなる場合もあるため、見えにくいなどの自覚症状が出たら早めに眼科を受診しましょう。



網膜静脈閉塞症



加齢黄斑変性